

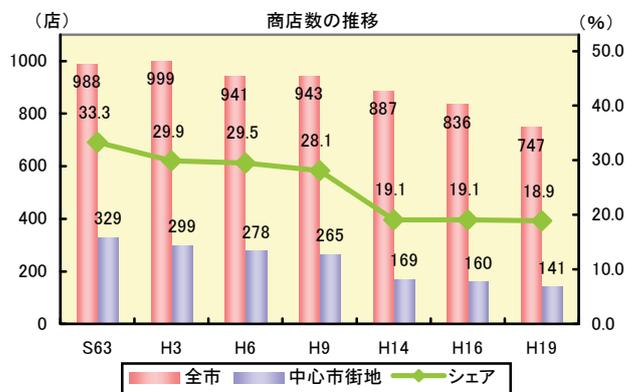
資料編

資料 1：金ヶ崎周辺の現況及び課題の整理

(1) 商業の状況

《商店数》

敦賀市全体では、平成 19 年時点で 747 件となっており、昭和 63 年の商店数の約 4 分の 3 に減少しています。また、中心市街地の商店数は、平成 19 年時点で 141 件となっており、昭和 63 年の商店数の約 4 割に減少しています。これに伴い、市全体に占める割合も平成 19 年時点で 18.9%と、昭和 63 年の 33.3%から大幅に減少しています。

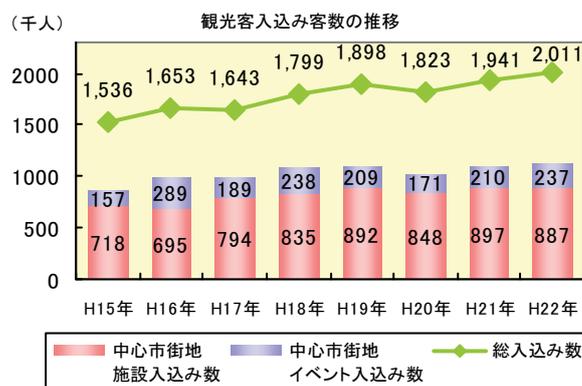


資料：各年商業統計調査

(2) 観光の状況

《観光入込み客数》

敦賀市には、年間約 180 万人の観光客が訪れており、JR 北陸本線・湖西線直流化及び観光 PR 活動等の効果により、観光客数は増加傾向となっていました。平成 20 年は減少に転じています。



資料：敦賀市観光まちづくり課

敦賀市の観光スポットやイベント開催場所は、中心市街地内に集積しており、市内の主要観光スポットの中で最も観光客の多い氣比神宮をはじめ、金ヶ崎周辺～舟溜り地区にかけて数多くの観光施設が集積しています。

観光スポットやイベント開催場所が中心市街地に集積している特徴を表すように、中心市街地を訪れる入込客数の割合は、全体の約 56%と高くなっています。

■主な観光地及びイベントの入込み客数

NO.		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
1	氣比神宮	593,000	581,000	636,000	632,000	631,000	630,000
2	市立博物館・山車会館※	9,200	10,250	10,450	7,650	8,250	9,200
3	旧敦賀港駅舎	15,700	18,800	28,600	16,100	26,700	21,200
4	アクアトム	85,400	85,400	89,600	68,000	80,000	93,000
5	金崎宮	91,000	139,100	127,200	123,800	133,100	115,600
6	人道の港 敦賀ムゼウム	—	—	—	11,300	18,100	17,700
7	敦賀まつり	151,500	153,000	164,000	123,000	165,000	168,000
8	つるが観光物産フェア	37,000	85,000	45,000	48,000	45,000	69,000
	中心市街地小計	982,800	1,072,550	1,100,850	1,029,850	1,107,150	1,123,700
9	氣比の松原	59,100	63,400	79,600	63,300	78,000	83,000
10	西福寺	6,100	7,700	8,300	7,000	6,900	4,800
11	あっとほうむ	73,200	111,200	154,500	163,000	148,000	149,000
12	敦賀原子力館	9,900	12,200	16,700	16,000	18,000	18,700
13	海水浴場	216,800	215,400	213,200	234,400	189,300	234,400
14	リラ・ポート	96,500	103,700	105,900	97,700	105,000	110,000
15	敦賀トンネル温泉	13,700	18,100	13,500	13,000	12,800	9,300
16	とうろう流しと花火大会	185,000	195,000	205,000	210,000	218,000	215,000
	敦賀市全体	1,643,100	1,799,250	1,897,550	1,822,950	1,941,000	2,011,000

※) 市立博物館・山車会館は、それぞれの入場者数を合算し、平均した値を記載

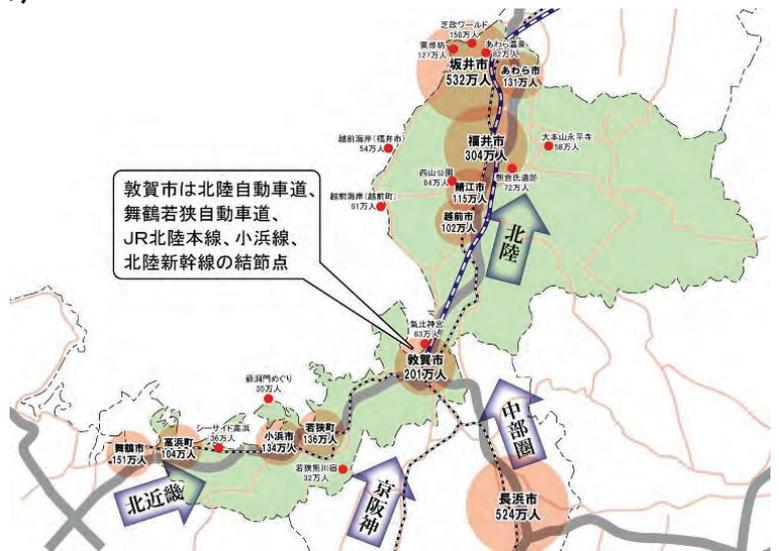
資料：平成 20 年までは敦賀市中心市街地活性化基本計画（人道の港 敦賀ムゼウムを除く）。人道の港 敦賀ムゼウム及び平成 21 年以降は事務局調べ

(3) 広域的にみた敦賀市の位置づけ

敦賀市は古くから交通の要衝であり、北陸と中部圏、京阪神、北近畿をつなぐ結節点です。

今後も、北陸自動車道と舞鶴若狭自動車道とのジャンクションが市内に建設される等、広域交通の要衝としての地位はゆるぎません。

本市は、嶺南地域では最も観光入込客が多く、福井県全体で見ても、坂井市、福井市に次いで第3位となっています。

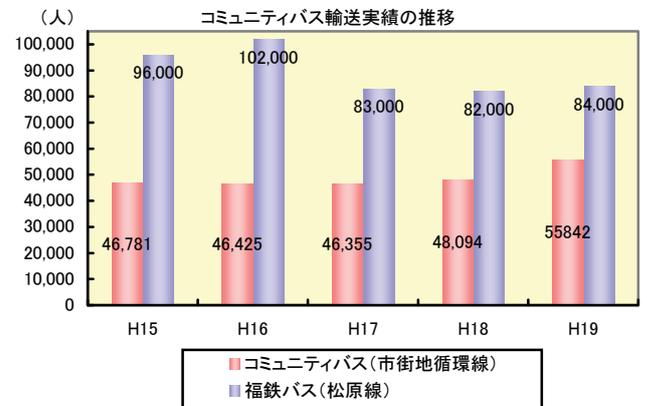


(4) コミュニティバス及び路線バス

敦賀市では、敦賀駅を発着として5路線のコミュニティバスの運行を行っています。

路線バスは民間が運行しており、このうち松原線は敦賀駅から国道8号を通り、氣比神宮、神楽町商店街を結ぶ中心市街地の大動脈を通る路線となっています。

コミュニティバスは、わずかながら利用者が増加してきており、民間のバス路線は年によってバラつきはあるものの、80,000人以上の利用があります。



(5) 中心市街地における宿泊施設の分布状況

敦賀市の中心市街地には、多くの観光スポットや観光イベントの開催地がある一方、宿泊施設としては、駅前のビジネスホテル群や旅館、民宿が主体となっており、中心市街地に立地する観光ホテルは少ない状況です。金ヶ崎周辺に限ると宿泊施設そのものが少ない状況です。



資料 2 : 赤レンガ倉庫・ランプ小屋・敦賀港線の歴史と現状

(1) 赤レンガ倉庫



赤レンガ倉庫に関する年表	
明治 38 年 (1905)	紐育スタンダード 石油会社倉庫建設 石油輸入開始
明治 42 年 (1909)	敦賀港第 1 期修築工事 による倉庫前面埋立
大正 2 年 (1921)	第 2 期修築工事による 臨港線の布設 (昭和 7 年(1932)まで)
昭和 15 年 (1940)	紐育スタンダード石油会社撤退
	戦時中は日本軍が備品庫として利用
昭和 26 年 (1951)	(株) 高橋商店 (現・ヤマトタカハシ (株)) が購入
昭和 56 年 (1981)	屋根修復工事
昭和 58 年 (1983)	屋根葺替工事
平成 15 年 (2003)	敦賀市に譲渡
平成 16 年 (2004)	「敦賀市にぎわい創出拠点整備基礎調査」
平成 20 年 (2008)	「敦賀市赤レンガ倉庫活用基本構想」
平成 21 年 (2009)	北棟、南棟、煉瓦塀が国の登録有形文化財 に登録。倉庫前に芝生広場を整備
平成 22 年 (2010)	「敦賀港芸術村構想」

敦賀港は、明治 32 年 (1899) に外国貿易港に指定された。この倉庫は紐育 (ニューヨーク) スタンダード石油会社が明治 38 年に石油の輸入を開始したときに石油貯蔵庫として建設された。2 棟のイギリス積みの煉瓦造平屋建の倉庫は、外国人技師の設計と伝えられている。

この倉庫は、第二次世界大戦中は軍の被服庫として、その後は海産物の貯蔵庫として使用されてきたが、平成 15 年に敦賀市に寄贈された。

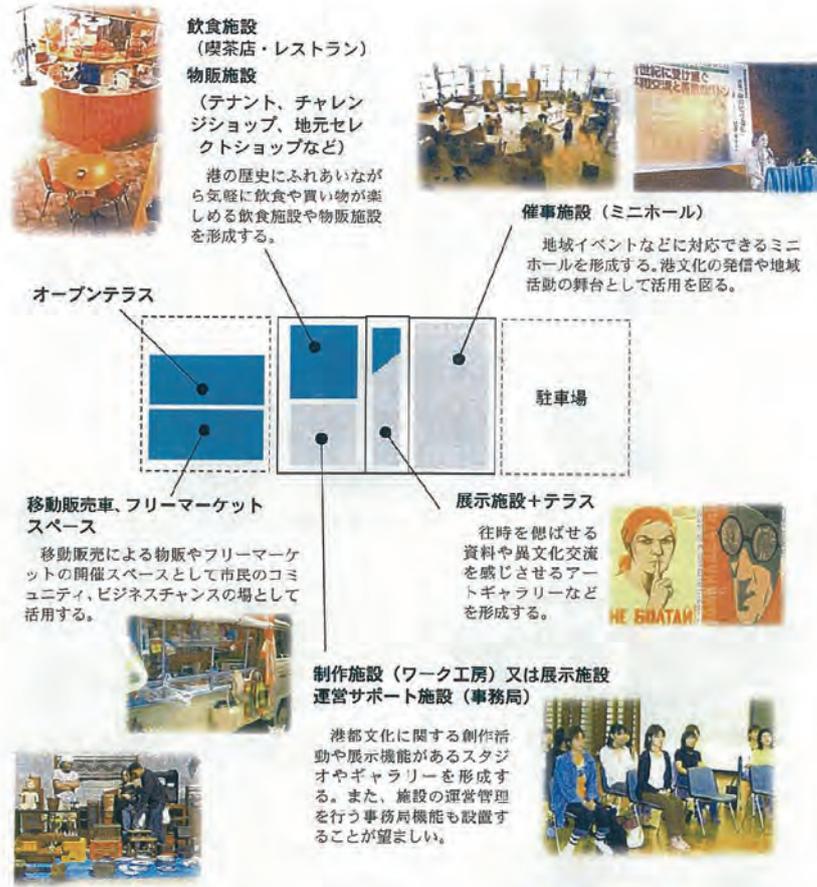
内部には、柱型を出さずに、桁行方向の内壁には 1 から 65 までの石油缶整理用の数字が残されている。

県内では最大の煉瓦造の建物は、敦賀港の繁栄の時代を今に伝える遺構の一つで市民からは「赤レンガ倉庫」として親しまれている。

敦賀市・(社)敦賀観光協会

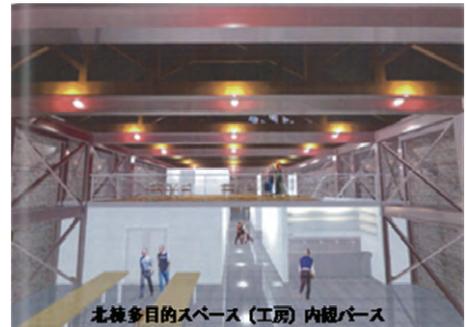
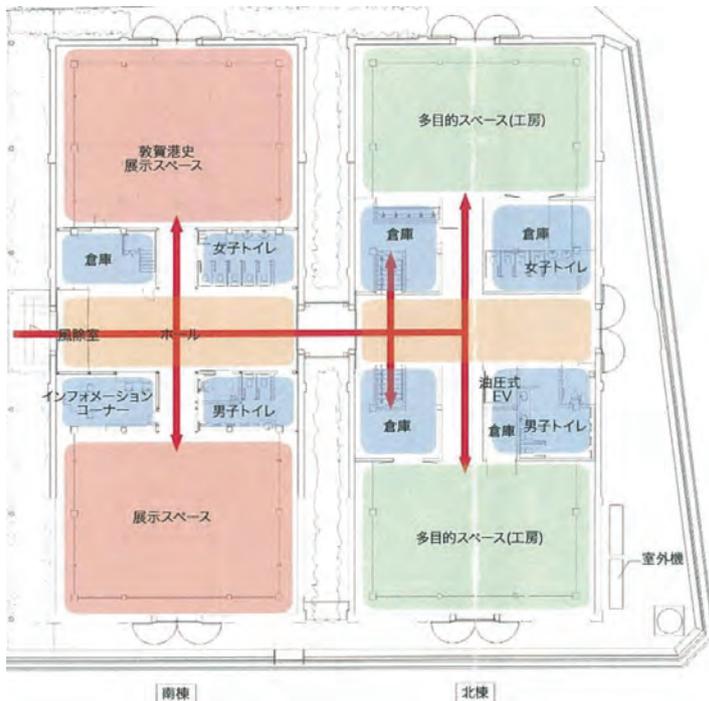
参考：赤レンガ倉庫に関する既往構想等

ア)「敦賀市にぎわい創出拠点整備基礎調査（H16）」の施設利用計画

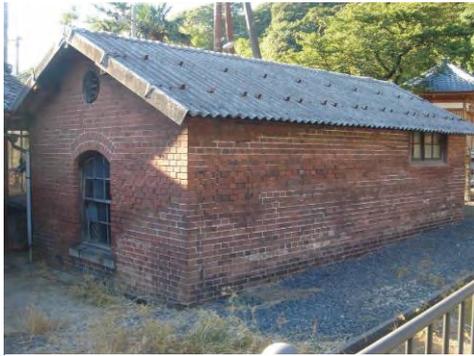


イ)「赤レンガ倉庫活用基本構想（H20）」の活用計画

北棟	エントランス (インフォメーション、事務室) と敦賀港史を中心とした展示スペースを設ける
南棟	多目的スペースや倉庫等を配置
南北棟の間	両棟間のスペースを活かしたオープンカフェ、休憩所など



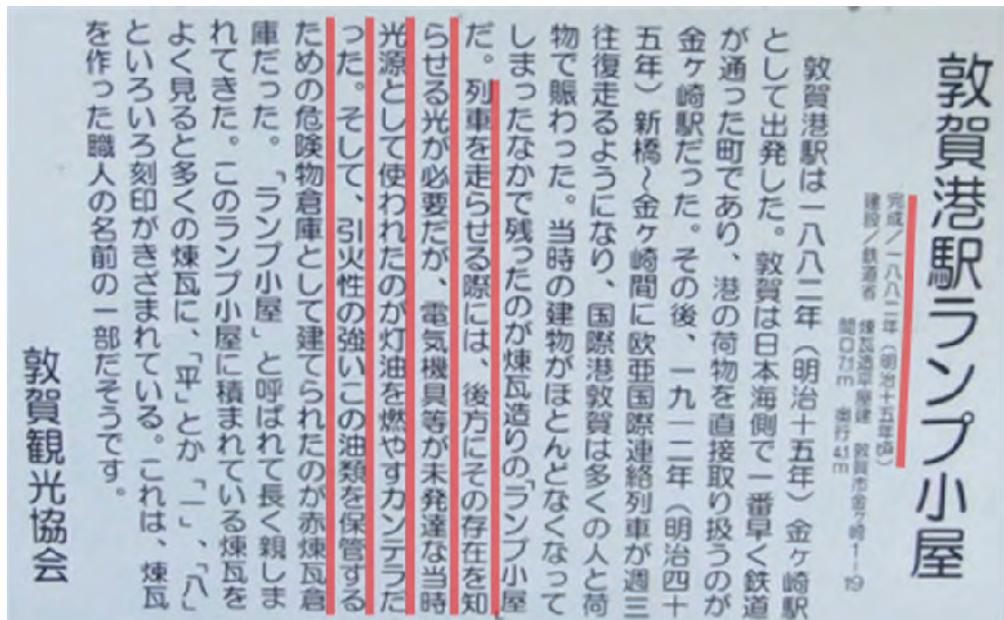
(2) ランプ小屋



写真：現在のランプ小屋

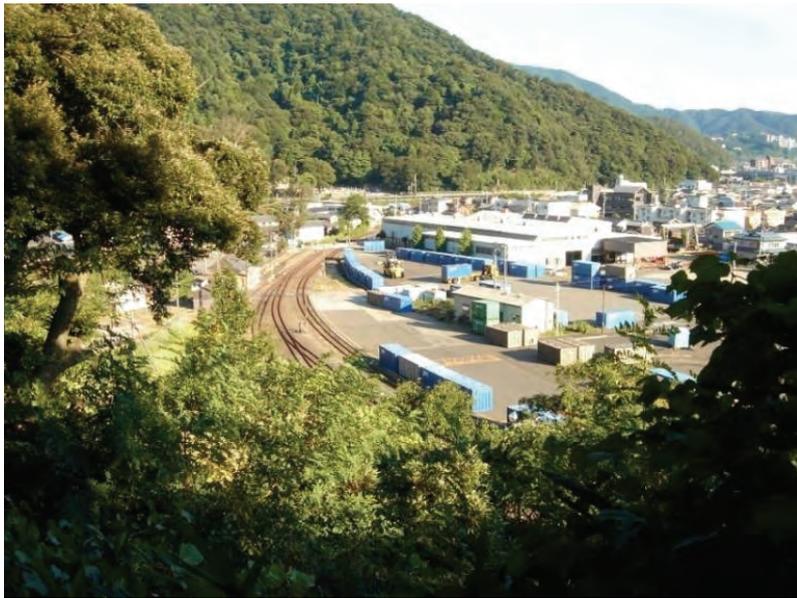


写真：昭和50年頃のランプ小屋



写真：ランプ小屋前に掲示されている観光協会による案内文

(3) 休止中の敦賀港線（貨物線路と駅）



写真：金ヶ崎宮付近から鳥瞰した敦賀港駅



写真：敦賀港駅舎



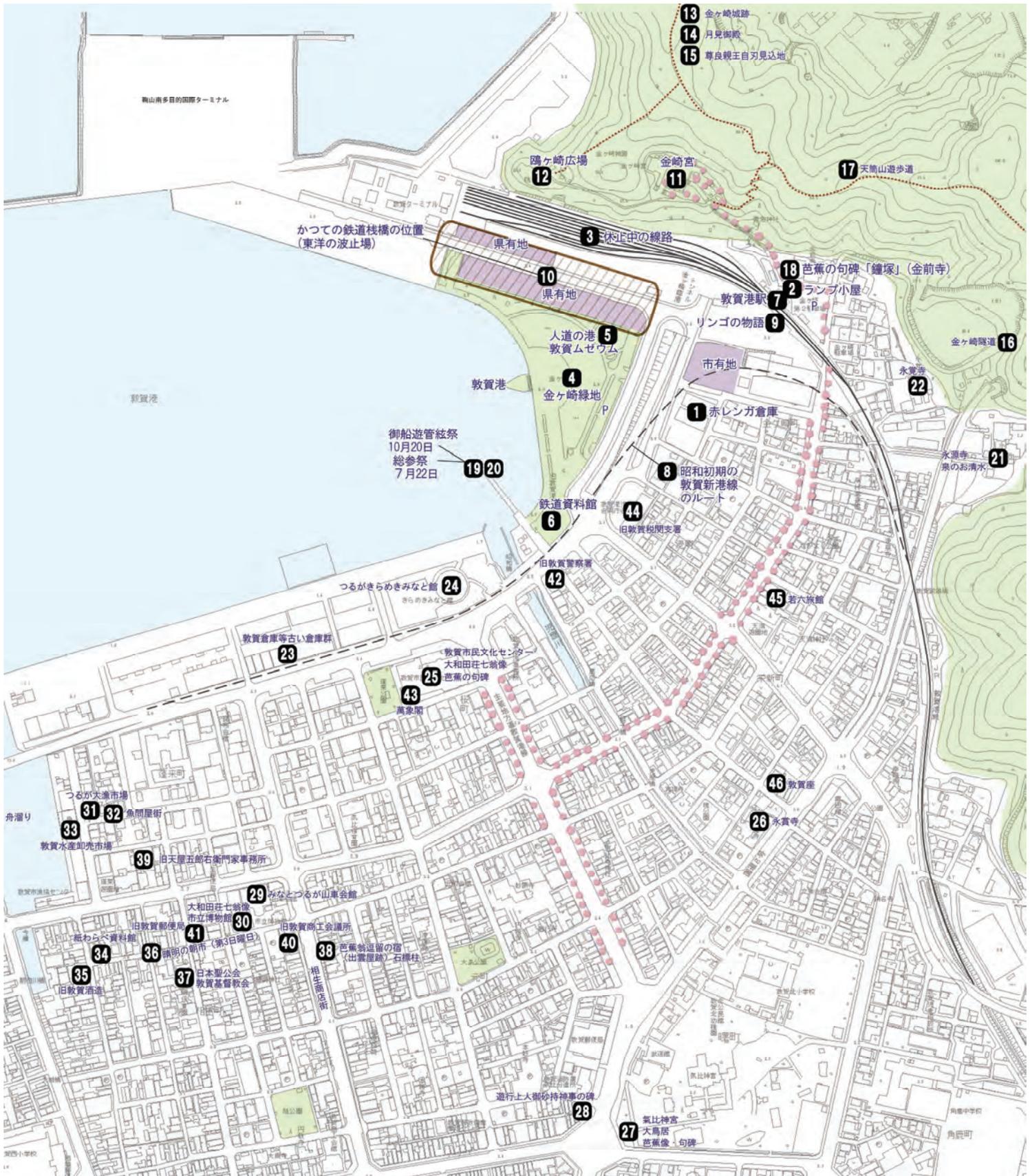
写真：敦賀港線

敦賀港線に関する年表	
明治 15 年 (1882)	洞口道一金ヶ崎間（現敦賀港）鉄道開通 金ヶ崎突堤が竣工
明治 17 年 (1884)	敦賀線長浜一金ヶ崎間が全通開業
明治 32 年 (1899)	敦賀港が開港場（外国貿易港）に指定
明治 45 年 (1912)	敦賀港線ルート変更完成 新橋一金ヶ崎間にウラジオストク航路と直結する欧亜国際列車を週 3 回運行
大正 8 年 (1919)	金ヶ崎駅を敦賀港駅と改称
大正 9 年 (1920)	敦賀鉄道栈橋完成
大正 13 年 (1924)	東京－敦賀港間欧亜国際連絡列車廃止
昭和 2 年 (1927)	東京－敦賀港館に欧亜国際連絡列車を週一回復活
昭和 9 年 (1934)	東京－敦賀港間に北鮮雄基航路連絡列車を新設
昭和 15 年 (1940)	ユダヤ人難民がシベリア鉄道を経て敦賀に上陸 欧亜国際連絡列車廃止
昭和 62 年 (1987)	敦賀－敦賀港間旅客営業廃止 国鉄民営化
平成 11 年 (1989)	敦賀港開港百周年記念「きらめきみなと博」開催
平成 21 年 (2009)	敦賀港線休止

資料3：市民ワークショップ(平成23年3月～5月)でのご意見
(赤レンガ倉庫・ランプ小屋・敦賀港線関係)

赤レンガ倉庫	食 関 連	<ul style="list-style-type: none"> ・赤レンガレストランの復活 ・赤レンガ倉庫を集客施設として利用(ライブハウス、オルゴール館、結婚式場、特大ビアホール、ジオラマ展示、カフェ、鉄道や港に関するテーマ施設等)
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的スペースとして利用 ・芭蕉関連記念館 ・特産物の店、ギフトショップ 等
	活用に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・赤レンガ倉庫の立地が中途半端 ・赤レンガ倉庫は窓も少なく使いにくいので景観要素として活用 ・耐震補強が課題、駐車場がない 等
ランプ小屋	<ul style="list-style-type: none"> ・ランプ小屋の文化財化 ・観光振興への寄与 ・ライトアップ ・ランプ小屋を往時の姿に復元(当時に想いを巡らすことができるような外観や内部に) 	
敦賀港線	回遊性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者動線の整備 ・敦賀港駅の活用 等
	鉄路の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀港線の保全、活用 ・欧亜国際列車の運行 ・SLを走らせる(200～300mでも) ・本町第3公園のSLの移設 ・乗っては遊べる列車が欲しい ・鉄っちゃんゾーン 等
	ソ フ ト	<ul style="list-style-type: none"> ・人力トロッコ・レールサイクル ・線路のウォーキング ・本町第3公園のSL移設を市民で引っ張るイベント ・130周年イベントアイデアを子供たちから提案 ・子供を巻き込む。親、祖父母もくる ・敦賀祭り等イベントとの連携 等
	貨物置場の活用、施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・レトロな町並み、レトロな商店街 ・ホテル(客車、鉄道、迎賓館、外国人対応) ・ジオラマ展示、ジオラマカフェ ・999テーマ館、999関連整備 ・旧敦賀港駅舎移設 ・レトロな風呂屋 ・税関検査所 ・大和田商店 ・鉄道コンテナの撤去 ・観光バス駐車場 ・欧亜国際列車など鉄道の歴史、物語 ・イメージパースを展示 ・市民は食べ物情報には敏感 ・外国人対応、おもてなし 等

資料4：金ヶ崎周辺のまちづくりの資源
【資源分布状況図】



【資源一覧表(その1)】

番号	名称	分類	写真	概要
1	赤レンガ倉庫	近代化遺産		明治 38 年（1905 年）に建てられた 2 棟のレンガ造り倉庫。 東洋の波止場と近代化の歴史を物語る貴重な建造物。（現在は市が所有、南側に芝生広場が整備済み）
2	ランプ小屋	近代化遺産		鉄道の走行に欠かせないランプとその燃料の収納用に建てられたレンガ造りの倉庫。 最低でも 90 年以上前に建設されており、明治初期に建設されている可能性が高い。
3	休止中の線路	近代化遺産		平成 21 年（2009 年）に休止された貨物線の線路。現在は休止中であり、レールなどの鉄道施設の多くが残っている。
4	金ヶ崎緑地	オープンスペース		敦賀湾に面する広大な緑地。平成 15 年（2003 年）に整備完了。 面積は約 3.5ha。緑地内に旧大和田別荘洋館を復元した施設があり、現在、人道の港敦賀ムゼウムとして利用されている。
5	人道の港敦賀ムゼウム	近代化遺産		ポーランド孤児・ユダヤ人難民の敦賀港上陸を紹介する資料館。建物は気比の松原にあった大和田家別荘を移築したもの。
6	鉄道資料館	近代化遺産		敦賀の鉄道に関する歴史を紹介し、鉄道資料や列車模型などを展示。建物は「欧亚国際連絡列車」を象徴する旧国鉄敦賀港駅舎を再現したもの。
7	敦賀港駅	近代化遺産		1882 年に金ヶ崎駅として開業した日本貨物鉄道の貨物駅。1912 年～1940 年頃は旅客営業もされた。2009 年 4 月より貨物列車がなくなったためオフレールステーション（コンテナ取扱基地）として営業。
8	昭和初期の敦賀新港線	近代化遺産		1932 年に蓬萊町の敦賀新港駅までの貨物支線として開業。1943 年 4 月に廃止となった。線路は 1980 年頃まで存在していた。
9	リンゴの物語	人道の物語		敦賀港に上陸したユダヤ人難民に食べてもらおうとリンゴなどの果物が一杯入った籠を 16、7 歳の少年が置いていったというエピソードが伝わっている。

【資源一覧表(その2)】

番号	名称	分類	写真	概要
10	鉄道棧橋	近代化遺産		欧亜国際連絡列車とウラジオストク - 敦賀連絡船の中継地であり、東洋の波止場と謳われた欧州への玄関口。税関出張所、大坂商船、露国義勇艦隊敦賀港支店などモダンな洋風建築物が建ち並び、多くの著名人やユダヤ人難民らがここを通過した。
11	金崎宮	歴史的資源		恋の宮とも称され恋愛祈願に多くの男女が訪れる。千本の桜が咲く春には、花換まつりを中心に多くの人でにぎわう。
12	鷗ヶ崎広場	公園緑地		大正天皇が敦賀にこられた際に休息のために設けられた展望広場。
13	金ヶ崎城跡	歴史的資源		治承・寿永の乱（源平合戦）の時、平通盛が木曾義仲との戦いのために城を築いたのが始まりと伝えられる。戦国時代の「金ヶ崎の戦い」の舞台となり、月見御殿跡、木戸跡、曲輪、堀切などが残り、1934年には国の史跡に指定されている。
14	月見御殿	公園緑地		金ヶ崎城の本丸跡。敦賀湾が一望でき、晴れた日には越前岬まで見ることができる。
15	尊良親王自刃見込地	歴史的資源		金ヶ崎城には、延元元年/建武3年（1336年）に尊良、恒良両親王を奉じた新田義貞が入城、直後に足利方に攻められた。延元2年（1337年）に金ヶ崎城は落城し、尊良親王は自害された。
16	金ヶ崎隧道	近代化遺産		明治19年（1886年）に完成した敦賀と福井方面を結ぶ重要なトンネル。扁額には時の内務大臣山縣有朋と旧福井藩主松平春嶽の文字が刻まれている。入口部は石組。坑内は上部がレンガ、下部が石組となっている。
17	天筒山遊歩道	公園緑地		金ヶ崎周辺地区北部の金ヶ崎城跡や金ヶ崎公園、天筒山の展望台等を結ぶ遊歩道。敦賀湾や中池見湿地への眺望と豊かな自然を楽しむことができる。

【資源一覧表(その3)】

番号	名称	分類	写真	概要
18	松尾芭蕉の句碑「鐘塚」(金前寺)	歴史的資源		芭蕉翁が、元禄2年(1689年)に金ヶ崎を訪れた際、南北朝時代の金ヶ崎落城の悲劇にまつわる陣鐘の逸話を聞き、詠んだ句「月いつく鐘ハ沈める海の底」の碑が建立されている。
19	御船遊管絃祭	その他		延元元年/建武3年(1336年)10月20日に尊良・恒良両親王以下の将士が管絃の船を海に浮かべて紅葉を愛で月を賞したという故事に倣い管絃祭が行われる。
20	総参祭	その他		男神である氣比神宮の御祭神(仲哀天皇)が女神である常宮神社の御祭神(神功皇后)に逢いに行く年に一度の祭事。
21	永源寺 泉のお清水	歴史的資源 水辺・水路		幕末に水戸天狗党が敦賀において投降した際、永源寺は、僧門に帰依させることを条件に少年党员11名を引き取った。 泉のお清水は、戦国時代に農民たちに発見されて以来、600年以上にわたり、涸れることなく湧き続け、周辺住民の生活を支える水場として使われている。
22	永覚寺	歴史的資源		永覚寺では、水戸天狗党が投降した後に、仮の白洲が設置され、党员らが幕府の裁きを受けた。
23	敦賀倉庫等古い倉庫群	近代化遺産		昭和初期に建てられ、現在も使用されている倉庫群。出窓や庇の装飾が特徴的なRC造の敦賀倉庫と木造の倉庫群が印象的な景観を形成している。
24	きらめきみなと館	その他		多目的に利用できるイベントホールと、演劇や発表会に適した小ホールを備え、船の煙突をイメージした外観をした複合文化施設。
25	敦賀市民文化センター 大和田荘七翁像 芭蕉の句碑	その他 近代化遺産 歴史的資源		大・小ホールの他、練習室等を備えた敦賀市民の文化の殿堂的施設。敷地は、明治19年(1886年)から昭和20年(1945年)まで、迎賓館兼会議場として使われた萬象閣の跡地。 敷地内には敦賀港の近代化、開港に尽力した大和田荘七翁の功績を顕彰する銅像がある。また、芭蕉の句「国々の八景更に氣比の月」を刻んだ碑もある。

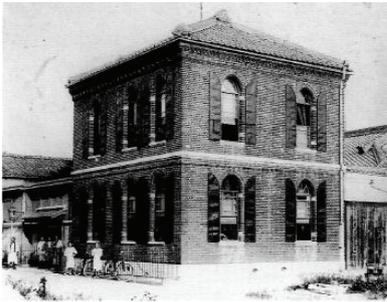
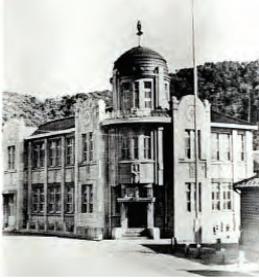
【資源一覧表(その4)】

番号	名称	分類	写真	概要
26	永賞寺	歴史的資源		敦賀城主で豊臣秀吉の家臣であった大谷吉継の菩提寺。境内には大谷吉継の供養塔がある。
27	氣比神宮 大鳥居 芭蕉像・句碑	歴史的資源	  	氣比神宮は、敦賀市民からは「けいさん」の呼び名で親しまれている北陸道の総鎮守であり、大宝2年(702年)の建立と伝えられている。 高さ11メートルの大鳥居は国の重要文化財に指定されており、日本三大木造大鳥居の一つに数えられる。 境内には、芭蕉翁の像とこの地で詠んだ五句を刻んだ碑がある。
28	遊行上人 御砂持神事 の碑	歴史的資源		昔、氣比神宮の周辺には沼地があり、参拝者の足元は悪かった。これを見かねた遊行上人(二世)は、自ら草を刈り土砂を運んで沼を埋め立て、参詣する人達のために尽くした。氣比神宮の前には、この故事を伝える碑があり、また、現在に至るまで代々の遊行上人が氣比神宮を訪れ御砂持の儀式を行っている。
29	みなとつるが 山車会館	歴史的資源		市内最大のイベント敦賀まつりに使われる山車を展示している。また、館内で迫力ある山車巡業の映像を見ることができる。
30	市立博物館 大和田莊七翁像	歴史的資源		建物は昭和2年(1927年)に大和田莊七により創設された旧大和田銀行。敦賀の歴史や民俗、美術に関する資料等と北陸で初めて設けられたエレベーターが展示されている。 市立博物館の前には大和田莊七翁の像が建立されている。

【資源一覧表(その5)】

番号	名称	分類	写真	概要
31	つるが 大漁市場	その他		市内の6つの鮮魚店が入居し、隣接する卸売市場で競り落とされた新鮮な魚介類を直売する。
32	魚問屋街	その他		古くから鮮魚等を扱う問屋が集積しており、独特の雰囲気合わせた街並みの修景が進められている。
33	敦賀水産 卸売市場	その他		平成21年に建替えられ、競りの様子を2階から見学できたり、漁具の模型の展示や敦賀の水産業に関するビデオ映像を見ることができる。
34	紙わらべ 資料館	その他		ふるさとの原風景を感じさせる昭和初期の子供たちの遊びを題材としている和紙人形作家高木栄子氏(敦賀市在住)の作品が展示されている。
35	旧敦賀酒造	歴史的 資源		寛永元年(1624年)創業の造り酒屋「敦賀酒造」の伝統的な商家の建築様式を今に伝える貴重な建築物。
36	晴明の朝市	その他		市立博物館と旧敦賀酒造を結ぶ通称「博物館通り」は、敦賀における市場発祥の地であり、毎月第3日曜日に朝市が開催され、もてなしの心あふれる売り子が新鮮な食材を販売する。
37	日本聖公会 敦賀基督教会	歴史的 資源		現在の2階部分は、明治後期に1階部分として建築され、その後、昭和初期に新たに1階部分を増築し、2階部分に持ち上げたとされる。
38	松尾芭蕉翁 逗留の宿 (出雲屋跡) 石標柱	歴史的 資源		芭蕉翁は、元禄2年(1689年)の中秋の名月の前日に敦賀に入り、出雲屋に泊まっている。その後、芭蕉の足跡を訪ねて多くの文人墨客が宿を訪れている。

【資源一覧表(その6)】

番号	名称	分類	写真	概要
39	旧天屋五郎 右衛門家事務所	現存しない 近代化遺産		<p>天屋五郎右衛門家は明治期まで北前船主を営んでおり、また、代々、俳句への造詣が深い人物を輩出した。松尾芭蕉を色ヶ浜に案内した天屋玄流とは天屋五郎右衛門のことである。</p> <p>明治 38 年築のレンガ造の洋館は平成 14 年まで残されていた。</p>
40	旧敦賀商工 会議所	現存しない 近代化遺産		<p>旧敦賀商工会議所は、大和田銀行を創設し、敦賀港の近代化に尽力した大和田荘七翁の寄贈によるもので、現在の相生町にあった。昭和 20 年 7 月 12 日の空襲により焼失した。</p>
41	旧敦賀郵便局	現存しない 近代化遺産		<p>旧敦賀郵便局は、現在の相生町、大和田銀行が建てられた並びに明治 42 年に建築された。</p>
42	旧敦賀警察署	現存しない 近代化遺産		<p>旧敦賀警察署は、現在の港町に明治 41 年に建築された。</p>
43	萬象閣	現存しない 近代化遺産		<p>萬象閣は、明治 19 年に当時の有力商人 32 名が出資し、建設費 1,100 円（当時）で建設された迎賓館兼会議場。明治 20 年から公営となり、多目的に活用された。現在、跡地には、敦賀市民文化センターが建てられている。</p>
44	旧敦賀税関支署	現存しない 近代化遺産		<p>旧敦賀税関支署は、大正 12 年に、現在の敦賀港湾合同庁舎が立地する場所に建てられた。</p>

【資源一覧表(その7)】

番号	名称	分類	写真	概要
45	若六旅館	現存しない 近代化遺産		<p>若六旅館は、天満神社の東側にあった旅館。ユダヤ人難民が上陸した際、宿泊した宿の一つである。</p>
46	敦賀座	現存しない 近代化遺産		<p>敦賀座は、現在の金ヶ崎にあった芝居小屋で、芝居の他、落語、浪花節、歌などの公演が毎日開催されていた。</p>